

富山県における住宅の雪対策

前 田 博 司^{*1}・鈴 木 有^{*2}・秦 正 徳^{*3}
石 川 浩一郎^{*4}・後 藤 正 美^{*5}・天 野 正 治^{*6}

Snow countermeasures at residences in Toyama Pref.

Hiroshi Maeda, Tamotsu Suzuki, Masanori Hata
Koichiro Ishikawa, Masami Gotou and Masaharu Amano

Snow countermeasures at residences in Toyama Pref. are discussed by means of the questionnaire investigation. As a result, it is found that the tools and materials are simplified, and the snow countermeasures and the wisdom which is peculiar to the snowy country life are changing.

1. はじめに

社会の変化や気候の変動によって大きく変わりつつある住宅の雪対策について、福井県奥越地方、石川県および信越地方において住民に対するアンケート調査を行った結果を報告した^{1,2,3)}。本報では、それに続き、富山県で同様の調査を行った結果を報告する。

調査の内容は、屋根の雪おろし・家の雪囲い・庭木の雪吊りや雪囲い等の現状と変化についてであり、中新川郡立山町および東砺波郡井波町で調査を行った。

調査の方法は、立山町および井波町の住宅を訪問して、手渡しでアンケート用紙を配布し、回収した。回答数は、立山町 142、井波町 44、計 186 であった。

2. 結果および考察

(1) 住宅および家族構成

「あなたの住宅はどれに該当しますか」という質問に対し、いずれの地域も大部分が「木造 2 階建」と答え、鉄筋コンクリート造や鉄骨造はごくわずかであった。

屋根形状は、「切妻」が最も多く、立山町で 67%、井波町で 61%であった。次は、両地域とも「入母屋」で、「寄せ棟」が第 3 位であった。また、屋根材は「瓦」が圧倒的に多く、立山町で 86%、井波町で 95%であった。

屋根の雪止めは、両地域ともついている方が多く、立山町で 83%、井波町で 82%であった。棟の雪割りは、立山町では 23%しかついていないが、井波町では 46%でついている。

同居者数は立山町では 6 人が最も多く、井波町では 4 人が最も多かった。両地域とも高齢者との同居が多いが、井波町では 65 歳以上の 1 人暮らしが 2 あった。

*1 建設工学科建築学専攻 *2 秋田県立大学木材高度加工研究所 *3 高岡短期大学
*4 福井大学工学部 *5 金沢工業大学 *6 石川工業高等専門学校 (名誉教授)

(2) 屋根の雪おろし

「雪おろしをしますか」という質問に対して、両地域とも「自分でする」が最も多く、立山町で73%、井波町で82%であった。また、「しない」という回答が立山町で16%、井波町で18%あり、その理由はほとんどが「克雪住宅だから」であった。しかし、「やりたくてもできない」という回答が立山町で9%あり、その理由は「危険だから」であった。克雪住宅のタイプは、「木造の耐雪型」が最も多く、「落雪型」がそれに続くが、立山町では融雪型も2あった(図1)。

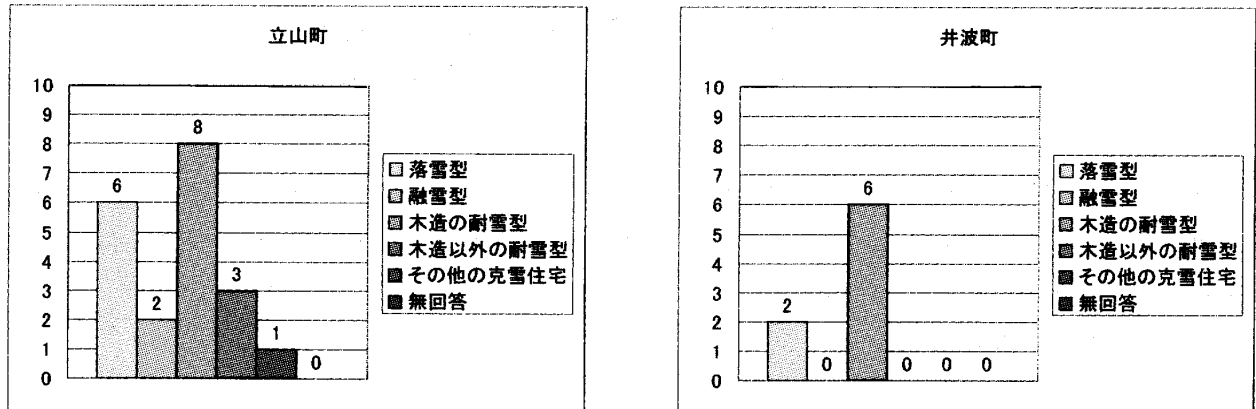


図1 克雪住宅の型

雪おろしをする場合、その回数は、両地域とも1冬で1回が最も多く、次が2回であったが、井波町の方がやや回数が多い。また、雪おろしを始める目安は、「雪が多くなったら」という回答が最も多く、60cm前後が最も多かったが、井波町では30cm以下で始めるという回答も28%あった。その他、図2のように、「戸やふすま障子の開け閉めがしにくくなったら」や「近所の家が始めたら」という回答もかなりあった。

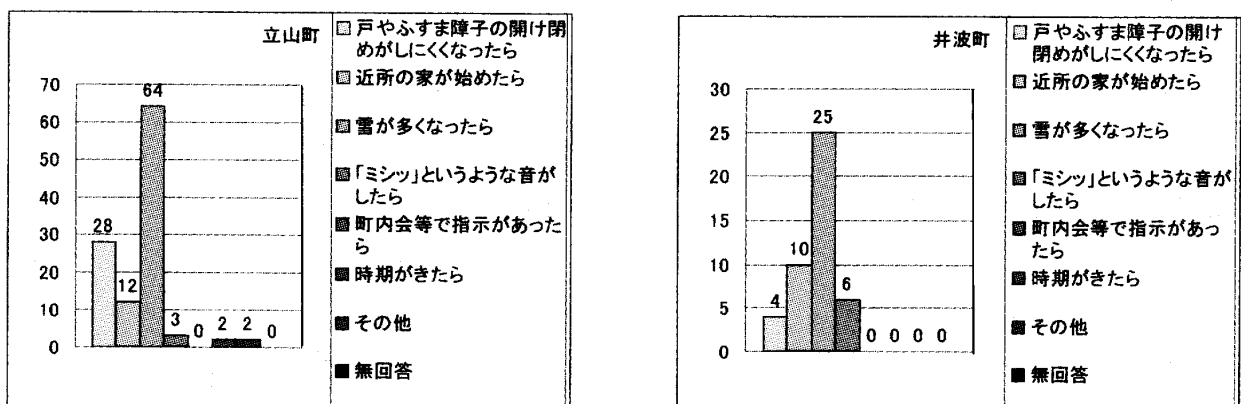


図2 雪おろしを始める目安

雪おろしの道具は、図3のように、「スノーダンプ」が最も多く使われ、「アルミ製スコップ」

もよく使われている。井波町では「アルミ製スコップ」より「鉄製スコップ」の方がよく使われているが、立山町でかなり使われている「ステンレス製スコップ」はほとんど使われていない。また、昔から使われてきた「コシキ・ばんば」も、両地域合わせて5と数は少ないが、今でも使われているようである。

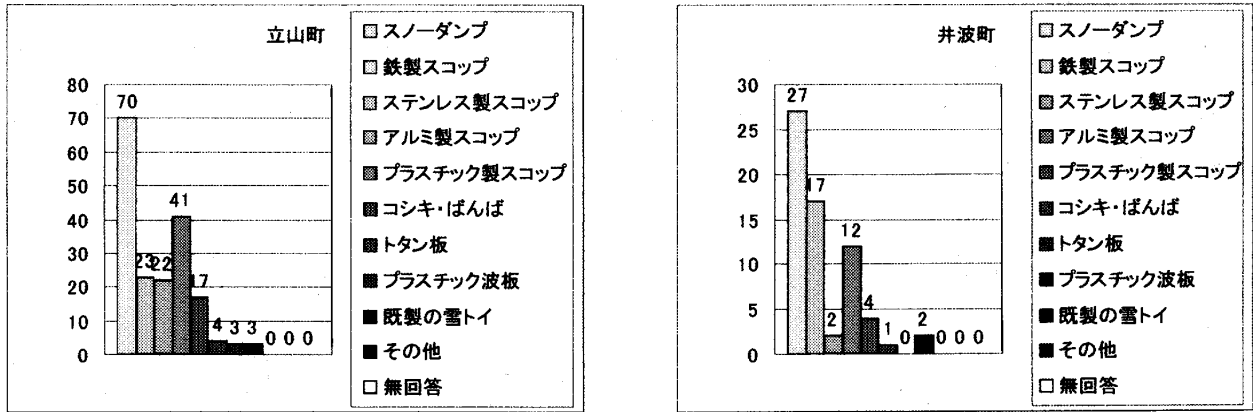


図3 雪おろしに使う道具

雪おろしを始める場所は、立山町で66%、井波町で75%が「軒先」からと答えた。また、2階建ての場合、1階と2階のどちらから始めるかは、両地域ともほぼ同数であった。

雪おろしをするときの人数は、立山町では「1人」という回答が63%を占めたが、井波町では「2人」の方が多く、53%で、「1人」は44%であった。

下ろした雪の処理は、両地域とも「敷地内にためておく」が最も多く、「流雪溝に流す」がこれに続き、「道路に出す」はきわめて少なかった（図4）。都市部と違って敷地に余裕もあり、雪国のマナーが守られているようである。

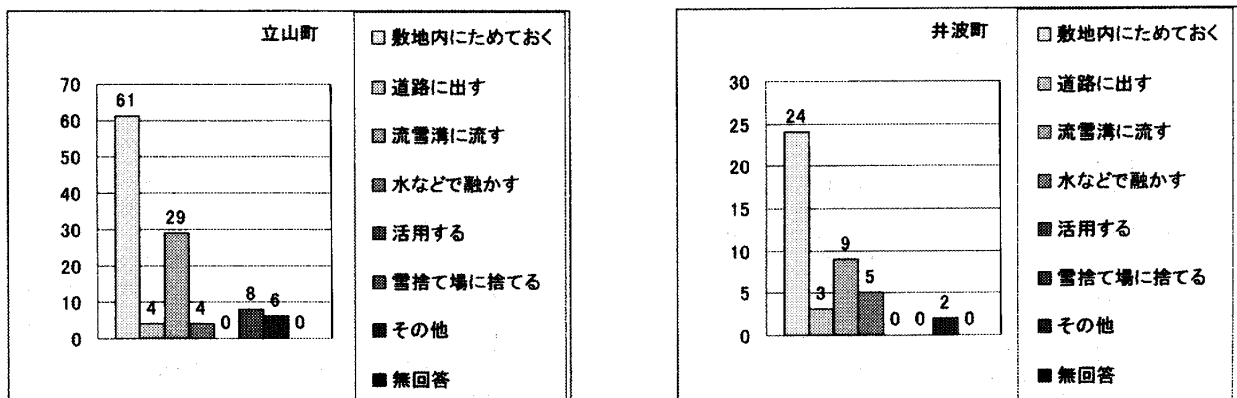


図4 おろした雪の処理

雪おろしをする際に注意していることは、両地域とも、「雪を屋根上に少し残すようにしてい

る」が最も多く、「道具にろうやワックスを塗って滑りやすくしている」「スコップの先で瓦を割らないようにしている」「屋根全体の雪おろしをしなくても、軒先の雪だけは早めに落としていいる」など、雪おろしのノウハウに関することが多かったが、「下を通る人に注意している」も比較的多かった。

(3) 家の雪囲い

「家の雪囲いをしますか」という質問に対し、立山町では66%が「しない」と答え、井波町では逆に70%が「する」と答えた。雪囲いをする場所は、図5のように、両地域とも「縁側」が最も多く、次は「玄関」であった。

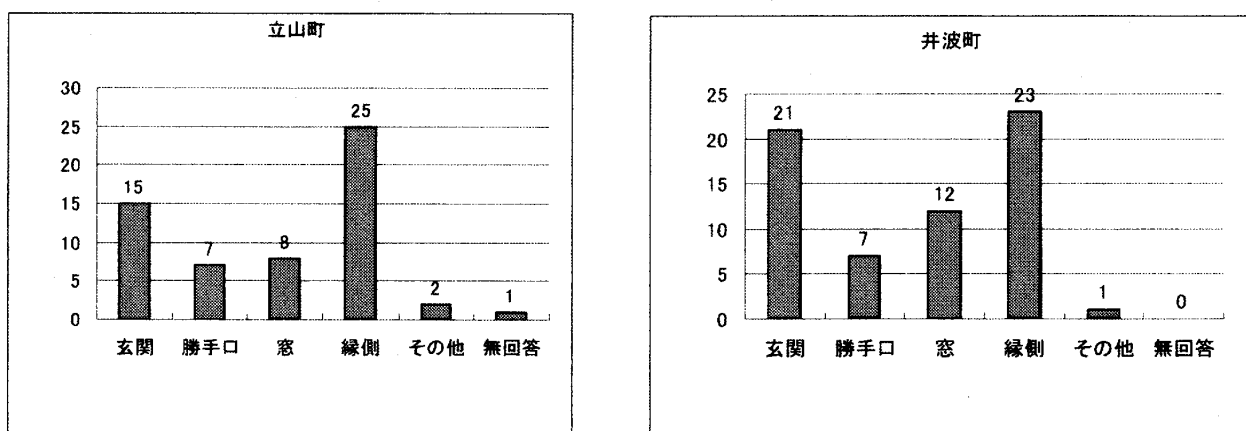


図5 雪囲いをする場所

雪囲いの材料は、両地域とも「プラスチック波板」が最も多く使われ、続いて「木板」「トタン板」の順であった(図6)。また、「かや・わら」も、数は少ないが、今でも使われているようである。

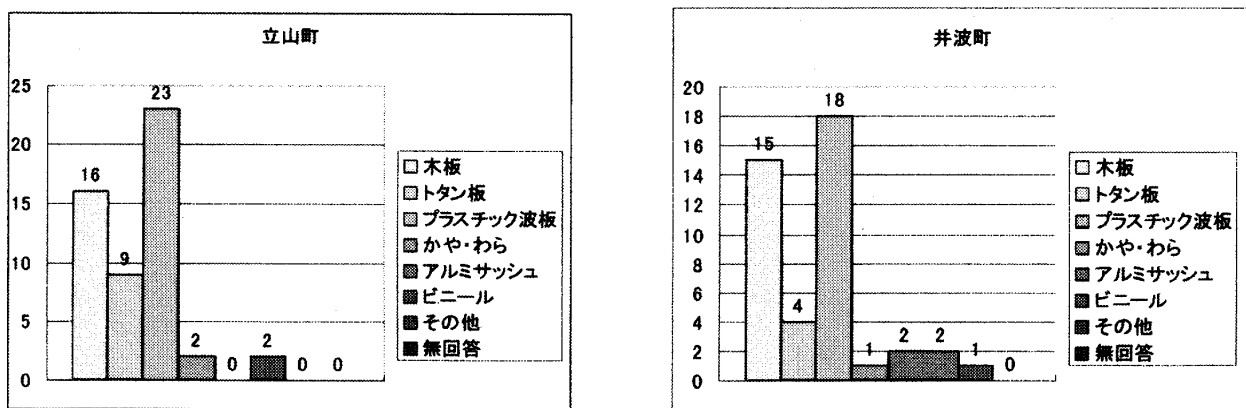


図6 雪囲いの材料

雪囲いをする人は、両地域とも全て「自分・家族」であり、「親戚・知人」や「大工・工務店

に依頼する」は皆無であった。

雪囲いをする時期は、「11月下旬」から「12月上旬」が多いが、「決まっていない」という答えも立山町で31%、井波町で26%あった。

(4) 庭木の雪吊り・雪囲い

庭木の雪吊りや雪囲いは、立山町では67%、井波町では実に80%が「する」と答えた。

材料は、図7の通りであり、両地域とも「縄」が最も多く、「竹」「木材」が続く。すなわち、一般的な雪吊りが行われているようである。

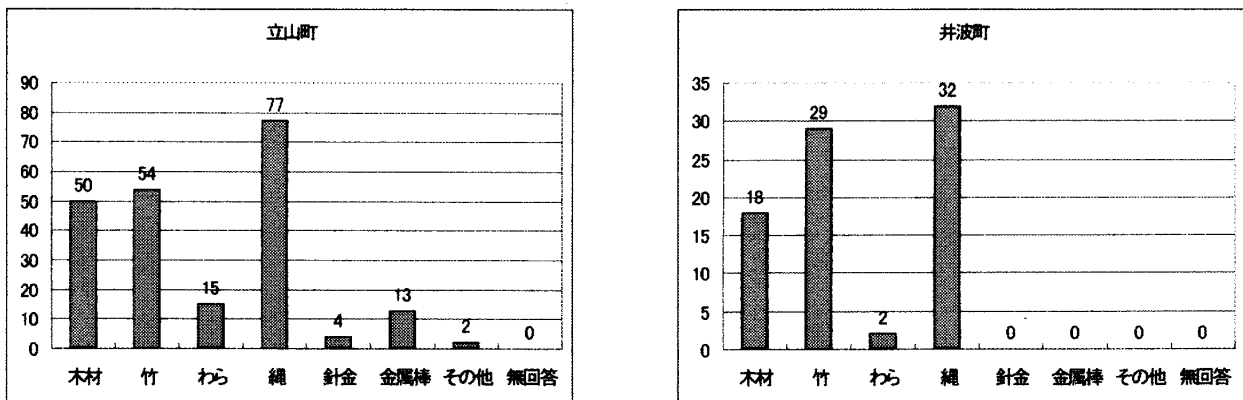


図7 庭木の雪吊り・雪囲いの材料

雪吊りや雪囲いをする人は、両地域とも、「自分・家族」がほとんどであるが、「植木屋」に依頼しているのも若干ある(図8)。

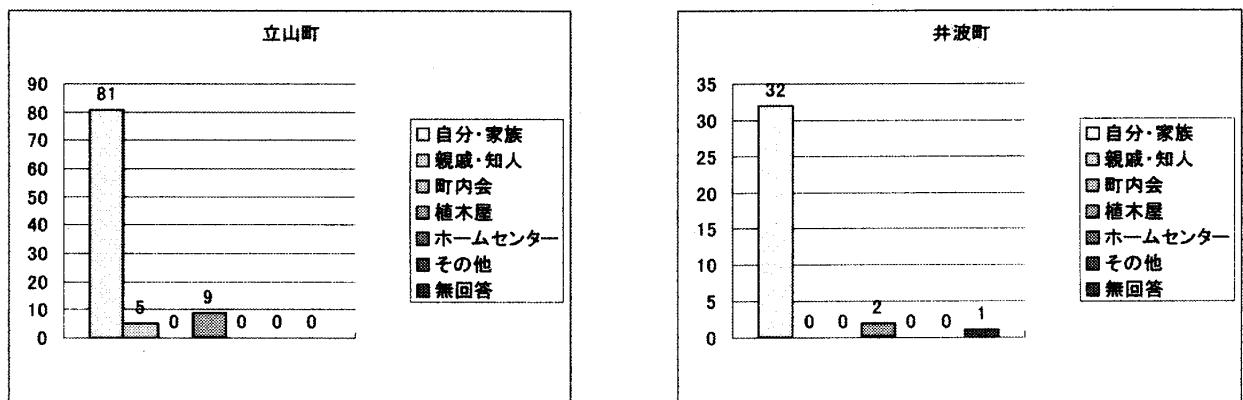


図8 庭木の雪吊り・雪囲いをする人

(5) 雪対策の変化

屋根雪おろしや雪囲い、雪吊りの方法・道具・材料・人等が昔と変わったかどうかの質問に対し、図9のような回答を得た。

両地域とも同様の傾向が見られ、家の雪囲いや庭木の雪吊り・雪囲いはあまり変化がないが、

雪おろしはかなり変化している。特に、立山町では、雪おろしが「昔と変わった」という回答がかなりあった。一方、井波町では、庭木の雪吊りにはほとんど変化がない。

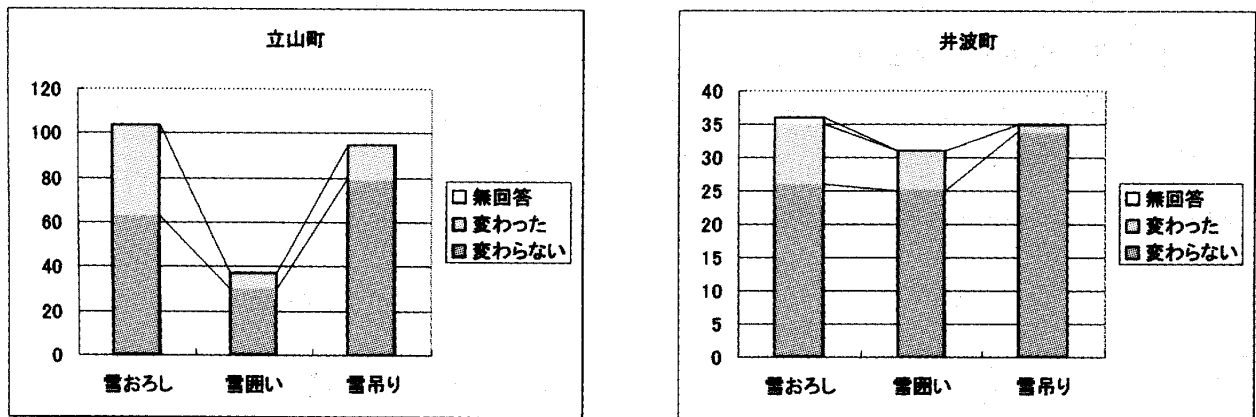


図9 雪対策の変化

雪おろしについて変わった点は、主に少雪化による回数や場所であり、次いで道具である。また、父から息子へと、世代交代による「する人が変わった」という回答もあった。

家の雪囲いについては、材料の変化とそれに伴う構法の単純化・簡素化、新改築による場所の減少、世代交代である。

庭木等の雪吊り・雪囲いでは、道具や材料等はほとんど変わらず、「する人が変わった」という程度であった。

3. むすび

住宅の雪対策の現状と変化についてアンケート調査を行った結果、道具や材料が発達したことに加え、克雪住宅が増加しつつあることや近年の暖冬少雪傾向もあって、雪おろし等の簡略化が進んでいることが明らかとなった。これは、以前に行った福井県奥越地方や石川県での調査結果と一致している。このことは、雪国の冬季生活の快適化という点では好ましいが、今後、もし大雪に襲われたときに適切な対応ができないおそれもある。したがって、雪国の生活の知恵を次世代に伝えていく必要もあると考えられる。

《参考文献》

- 1) 前田博司・佐々木真理・山内俊治：福井県奥越地方における住宅の雪対策，福井雪害対策研究会論文報告集，第6号、pp.7-13，1999.3
- 2) 前田博司・鈴木有・天野正治・後藤正美・石川浩一郎・秦正徳：石川県における住宅の雪対策，福井雪害対策研究会論文報告集，第7号、pp.8-13，2000.3
- 3) 前田博司・鈴木有・秦正徳・石川浩一郎・後藤正美・天野正治：信越地方における住宅の雪対策，福井工業大学研究紀要，第31号、pp.211-216，2001.3

(平成14年12月3日受理)